

神田川・環状七号線地下調節池

施設管理者 : 東京都
施設所在地 : 東京都杉並区
調査見学時期 : 平成 30 年 2 月 21 日 (水)

施設概要

神田川流域は、杉並区・中野区・新宿区など 2 市 13 区に及び、中小河川の中では最大の流域面積 105 km²を有しています。

近年の水害においては、平成 5 年 8 月の台風 11 号で、3,117 棟の浸水被害が発生しました。その後、第 1 期事業 (延長 2.0 km、貯留量 24 万 m³) および第 2 期事業 (2.4 km、30 万 m³) が行われ、貯留量が合計で 54 万 m³ となり浸水被害がほぼなくなっています (現在も延伸事業は続いています)。

地下調節池においては、平常時は河川水が流れ込まず、大雨時にのみ満水状態の 54 万 m³を貯留するような工夫がなされ、排水には 48 時間かかります。

貯留池に溜まった土砂は、大雨の少ない冬季の 11 月から 2 月にかけて清掃車が入って清掃を行っています。

また、火災時の防災対策として、平常時でも神田川の河川水を 6 万 m³貯留しています。

(GEC ニュース第 351 号 / 2018.12 より抜粋)



地下調整池



取水口

神田川・環状7号線地下調節池

施設管理者 : 東京都
施設所在地 : 中野区野方～杉並区和泉
調査見学時期 : 平成12年2月24日

施設概要

< 未来の安心を築く地下調節池 >

神田川・環状7号線地下調節池は、水害が頻発している神田川の中流域に「環7地下河川」を先行整備し、当面これを調節池として利用するものである。計画は、環状7号線の道路下（約40m）に延長4.5km、直径12.5mのトンネルを建設し、神田川と善福寺川の洪水約54万m³を貯留するものである。



（写真出典元：東京都）